

高齢級間伐箇所の選木作業を実施しました

令和3年12月17日（金）、石巻市の谷川山国有林530林班において、署内職員7名で高齢級間伐箇所の選木作業を実施しました。

今回の選木作業の目的は、今年度の製品生産箇所の伐採木選定を行ったもので、参加した若手職員のOJTとしての目的もありました。一緒に参加した署長の指導のもと、若手職員にとっては普段経験しない業務に触れることで林業の知識を深める重要な内容となりました。

実際に行った選木作業は、高齢級間伐箇所と言うこともあり、現地の樹木はどれも胸高直径60センチを大きく超え、高さも30メートル以上の木々が立ち並ぶ現地で、受託者が伐採する樹木の胸高直径や樹高を測り、目印にピンクテープを巻く作業を実施しました。選定基準は、収穫調査復命書表紙記載の材積間伐率23%を念頭に、「伐採後はどんな林地状況になるのか。」をイメージしつつ、参加者で話し合いながら進めていきました。



現地の風景



胸高直径を測る職員



ピンクテープを巻く職員

現地では、1メートルサイズを計測できる輪尺を用いる必要があったり、一人ではピンクテープを巻くこさえ難しかったりと、高齢級の巨木を前に参加者たちは終始驚きの声を口にしていました。

保育の観点でも、「この木を伐採すると、林地にどのような影響があるのか。」と考えたり、相談しながら作業を進めていきました。

今後、各種作業を行っていく上で、今回の経験を生かしていきたいと思ひます。

宮城北部森林管理署
総務グループ 西野 晶



相談しながら選定した高齢スギ